

嬉野の古代茶の木

樹齢 340 年以上と推定される巨大な茶の木「大チャノキ」。嬉野温泉街の西の丘にある茶畑の中に、高さ 4.6m、枝を伸ばすと 12m にもなる巨木です。

この木は、白石町に住んでいた吉村新兵衛（1603-1657）が、大名鍋島勝茂の嬉野の番付に任命されたことをきっかけに、この木のある皿屋谷に移植されたと言われています。嬉野茶の父と呼ばれる吉村新兵衛は、近隣の丘陵地を開拓して茶園を開き、茶商の吉村藤十郎とともに茶の交易を普及させたことから、嬉野茶の父と呼ばれています。吉村新兵衛が栽培した茶樹は、現在も茶畑で見ることができます。

大チャノキの樹齢は、吉村新兵衛がこの地に住んでいた時代にまで遡ります。大チャノキは吉村新兵衛の遺徳を偲び、嬉野茶のシンボルとして地域住民に親しまれています。毎年 4 月には、皿屋谷地区の住民や茶農家の人たちが、吉村新兵衛を祭って豊作を祈願しています。

大チャノキは大正 15 年 10 月 20 日に国の天然記念物に指定されました。